指揮:角田鋼亮



名古屋市生まれ。東海高校卒業後、東京藝術大学大学院指揮科ならびにベルリン音楽大学国家演奏家資格課程修了。2008年第4回カラヤン生誕100周年記念の同コンクール第2位。これまでに、ベルリン・コンツェルトハウス管弦楽団、ブランデンブルグ交響楽団、東京交響楽団、NHK交響楽団、東京都交響楽団、読売日本交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団などと共演しています。現在、セントラル愛知交響楽団音楽監督。

ひとことメッセージ

皆さん、こんにちは。指揮者の角田鋼亮です。今回私たちが皆さんにお届けする音楽のテーマは「踊り」です。世界には色々な踊りがありますが、その違いはその国の言葉や体の使い方、美しいと思う心の感じ方などからきています。さあ、私たちと一緒に心を弾ませながら各地を旅していきましょう!

司会:加藤恵利子



名古屋市生まれ。第34回 芸術創造賞を受賞。音楽の大学を卒業してから、たくさんのオペレッタやミュージカルに出演したり、日本の童謡や唱歌を歌うソロコンサートにも出演しています。そのほかには、コンサートなどでの司会やナレーションもしています。自分で考えたコンサートに「加藤恵利子~日本の歌、お好きですか?」「みみコン~みんなと耳の日コンサート」などがあります。好きなことは、音楽を聴くこと・歌うこと!

ひとことメッセージ

音楽は人を笑顔にしたり、ワクワクさせたり、そっと背中を押してくれたり…そんな音楽の持つ力に、日々感動中♪
今日の演奏が、みなさんの心に残る素敵な時間となりますように!

オーケストラ:セントラル愛知交響楽団

1983年ナゴヤシティ管弦楽団としてスタートし、1997年に現在の名前に変わりました。
2024年4月から音楽監督に角田鋼亮が就任しました。定期演奏会、コンチェルトシリーズ、「第九」演奏会のほか、バレエ、オペラ、ミュージカルや室内楽公演にも数多く出演しています。学校公演にも積極的に取り組んでおり、地域音楽文化や音楽教育に力を入れています。 [公式ホームページ]https://www.caso.jp

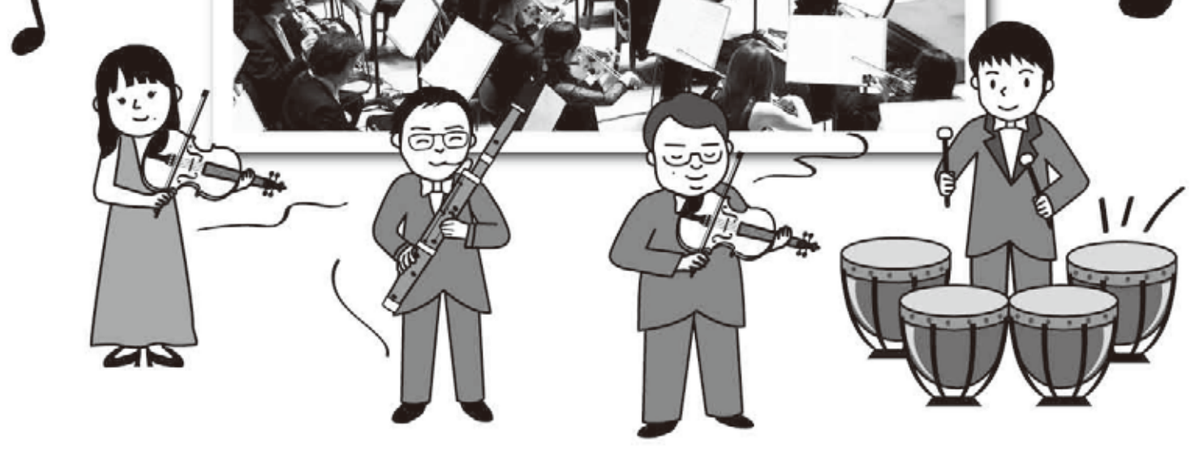


令和8年度 学校巡回公演

セントラル愛知交響楽団 オーケストラ公演

踊りの音楽 ~ようすを想い描いて





公演日/令和　　年　　月　　日

学校名/　　お名前/

学校巡回公演

全国の小学校・中学校等においてトップレベルの文化芸術団体による巡回公演を行うことを通じて、将来を担うすべての子供たちの豊かな感性を育む場を作り、芸術鑑賞能力の向上を図るとともに、文化的な地域格差の解消を促進することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。

文化庁
舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)
独立行政法人日本芸術文化振興会

プログラム

アントニン・ドボルザーク（1841年9月8日 ～ 1904年5月1日）:チェコ

スラブ舞曲作品46-3

弦楽器紹介　どんな楽器がでてきたかな？

メモ

芥川也寸志（1925年7月12日 ～ 1989年1月31日）:日本

トリプティーク（弦楽のための三楽章）より第3楽章

管楽器・打楽器紹介　印象に残った楽器はあったかな？

メモ

ヨハン・シュトラウス2世（1825年10月25日 ～ 1899年6月3日）:オーストリア

狂乱のポルカ（ギャロップのように）作品260

指揮者体験コーナー　指揮者に挑戦！

ヨハネス・ブラームス（1833年5月7日 ～ 1897年4月3日）:ドイツ

ハンガリー舞曲第5番

休憩

共演コーナー　リコーダーで共演♪

エドワード・エルガー（1857年6月2日 ～ 1934年2月23日）:イギリス

行進曲『威風堂々』第1番 作品39

ピョートル・チャイコフスキー（1840年5月7日 ～ 1893年11月6日）:ロシア

バレエ組曲『眠れる森の美女』よりプロローグ・猫・ワルツ

校歌

「作品名　　」　調べて完成させよう♪

作詞　（作詞者　　年　月　日 ～　　年　月　日）

作曲　（作曲者　　年　月　日 ～　　年　月　日）

演奏曲目の紹介

スラブ舞曲作品46-3

この曲は1878年にピアノ曲集（連弾）として作曲され、のちにオーケストラ用に編曲されました。チェコの代表的な民族舞曲（おどりの曲）をたくさん取り上げており、本日演奏する曲は“ポルカ”を取り入れています。飛び跳ねたり、ゆったり揺れてみたり、踊りの雰囲気を味わってみましょう。

トリプティーク（弦楽のための三楽章）より第3楽章

芥川也寸志（小説家の芥川龍之介の三男）が1953年に作曲しました。『トリプティーク』（英;triptych）は“三連画”という意味で、当時、芥川が好んで聴いていた楽曲のタイトルから名づけられたと言われています。弦楽器だけで演奏しますが、どこからかお祭りの太鼓や笛の音が聞こえてきそうです。

狂乱のポルカ（ギャロップのように） 作品260

『美しく青きドナウ』で有名なヨハン・シュトラウス2世は、数多くのワルツやポルカを作曲し「ワルツ王」と呼ばれています。《ギャロップ》とは、“馬が猛スピードで駆け抜けるような”という意味です。人々が何かに追い立てられるように踊る様子を想像しながらお聴きください。

ハンガリー舞曲第5番

ブラームスがハンガリーへ旅行した時に出会った沢山の民謡を集めて、『ハンガリー舞曲集』としてまとめました。本日演奏する第5番は、その中で最も有名な1曲で、速さや強弱の変化に富んでいます。皆さんも指揮者になった気分で楽しんでください。

行進曲『威風堂々』第1番 作品39

エルガー作曲のこの曲は、イギリスでは特に親しまれています。当時のイギリス王太子アルバートが、「この曲に歌詞を付けたら偉大な曲になるだろう」とエルガーに話し、実際に歌詞付きの曲が『希望と栄光の国』として末永く愛されています。

バレエ組曲『眠れる森の美女』よりプロローグ、猫、ワルツ

童話を基に作曲された作品で、チャイコフスキーの三大バレエ（『白鳥の湖』『くるみ割り人形』）の一つとして有名な曲です。さて、音楽からどのような情景が思い浮かぶでしょうか。